



# 教育研究所だより

令和3年度 No.7 (372号)

令和3年 8月 24日 (火)

発行所：いの町教育研究所

## 多層指導モデルMIM研修会

8月2日(月)に、国立特別支援教育研究所の海津亜希子主任研究員を講師としてお迎えし、いのホールにて教職員研修会を行いました。昨年度から計画していた研修ですが、本年度やっと開催することができました。



近年、特別支援教育へのニーズが高まり、支援が必要な子どもたちのために、日々先生方は奮闘されていると思います。そんな先生方の熱い思いにより、希望研修ながらたくさんの方にご参加いただきました。



皆さんはMIMをご存じでしょうか。「あの手を叩くやつでしょ」「言葉の勉強だよ」そのようなイメージがあるかもしれません。

しかし、研修にて海津先生のお話を聞き、イメージが変化したという参加者が多かったのではないのでしょうか。海津先生はMIMの開発者であり、MIM教材の活用について、全国でご講演をなさっています。当日も大変お忙しい中、いの町までお越しくださいました。

## ◇演題

「通常の学級における多層指導モデルMIM～学びを楽しみ 学びから自信を得る～」

## ・ MIMについて

Multilayer Instruction Model(MIM)は、2006年に開発が始まり、今では教科書でも使用されています。

東京書籍で採用されています。



MIMとは「通常の学級において、異なる学力層の子どもたちのニーズに対応した指導・支援をしようとするモデルである。特に、子どもが学習につまずく前に、また、つまずきが深刻化する前に指導・支援を提供していくことをめざしている。」

海津亜希子(2010) 多層指導モデルMIM 読みのアセスメント・指導パッケージ 学研教育みらい

研究所にも1セットあります。貸出OKです!



## ・ MIMを開発した背景について

LD(学習障害)の子に会うためには、彼らが学校でつまずくまで待たなければなりません。つまずいて初めて支援が開始されるのです。子どもたちは、「自分はバカなんだ」とやる気が下がり、不登校などの二次障害が生じてしまいます。

そこで、つまずいてからの支援から、つまずく前の支援ができないかと考えたのです。

## ・ MIMにおけるアセスメント

LDの子どもの多くがつまづく領域は特殊音節です。まず、通常の学級ですべての子どもに効果的な指導を行います。(1stステージ)そして、つまづきを早期に把握するために、一斉に読みの正確さや速さを確認するテストを行います。



先生方もテストに挑戦!

## ・ 1stステージ指導

国語の年間計画に位置付けましょう。クラスの中で繰り返し練習し、スキルの習得を目指します。読めるようになるポイントとしては、1字ずつ読むのではなく、まとまりで読むことを意識させることです。また、動作化させることにより、それ自体がアセスメントになります。



## ・ 2ndステージ指導

1stステージのみでは伸びが乏しい子どもは、通常の学級内での補足的な指導と配慮をします。やり方は、1stの内容を繰り返していただけます。間違ったときに、早く修正させます。フラッシュカードなどを使い、時間を区切ってどんどん練習させます。

## ・ 3rdステージ指導

2ndステージでも伸びが乏しい子どもは、集中的に柔軟な形態による、より特化した指導を行います。やり方は、1stの内容を繰り返していただけます。少人数で、集中的に、指導のフィードバックがたくさん受けられる環境で行います。決して「居残り勉強」「先生に呼び出された」と子どもが思う学習ではなく、1stの子どもが「いいな、楽しそうだな」と思うような勉強にしてください。

素敵な招待状をもらって勉強するよ!



勉強は楽しい!簡単!

校長先生と一緒に勉強したよ!

## ・ 参加者の感想より

お話を直に聞くことができ大変ありがたかったです。どの子どもにも読み書きができるようになってほしいという先生の思いが伝わってきました。2学期から実際に取り組んでみたいことがたくさんありました。

先生の、子どもたちへの熱い思いが伝わってくる講演でした。少しでも、読み書きで嫌な思いをする子どもたちがいなくなって、楽しく学習できるMIMはとても素敵だなと感じました。早く気づいてあげて、適切な指導をしていく責任が教師にはあると思いました。

以前からMIM教材を使って、読みの学習を行っていましたが、海津先生からその理念をお聞きして、これから更に取り組んでいこうと思いました。「子どもが学習につまずく前に」という言葉が特に心に残りました。

海津先生には、MIMができた背景から、その活用方法、MIMデジタル版の紹介などをしていただきました。直接お話を聞いたことで、MIM開発への熱い思いが伝わる研修会でした。

2学期から、本研修での内容を共有していただき、各園・学校で活用していただければと思います。